

長崎県建築鉄骨研究会 令和4年度意見交換会報告

1. 開催日時：令和4年12月7日（木） 16:00～17:30
2. 場所：出島交流会館（長崎市出島町2-11）
3. 参加者：別紙出欠表のとおり
4. 意見交換会

(1) はじめに司会進行担当の岩永洋尚副会長から開会の辞が述べられ、本意見交換会の内容についての説明があった。引き続き会長の挨拶と高比良秀博副会長による講話があり、岡崎克喜専門委員長から配布資料に基づいて令和4年度事業の中間報告が行われ、出席者全員による自由討議となった。

(2) 講話

講師：高比良秀博氏（（一社）長崎県建築士事務所協会 耐震診断判定委員長・本会副会長）

テーマ：「耐震診断よもやまばなし」

平成7年（1995年）の阪神淡路大震災の現場を見て得た知見を皮切りに、耐震診断判定委員会の構成やこれまでの経緯、RC建物の枠付き鉄骨ブレースや体育館補強の標準図を仕上げて実用に供したこと、判定の実務についてのいくつかのトピックなど興味深い講話があった。

(3) 自由討議

話題は大きく分けて二つであった。一つは、「今年度は工場見学も現場見学も実施しない予定である」との専門委員長の説明に対して再検討を求める意見が出されたこと。もう一つは、「必要ないと思われる鉄骨柱脚の不メッキ処理」を要求される場合があることについての本会委員の意見を問うものである。

それぞれ活発な議論のあと、概ね以下のようなところに話は収束した。

- ・前者については、コロナ禍の中で年度末も近く厳しい状況ではあるが、ビデオを用いた上映会形式を含めて、現場見学実施の可能性について専門委員会でもう一度検討してはどうか。
- ・後者については、「不メッキ処理は必要ない」との確かな根拠、例えば信頼するに足る実験結果を報告した論文や関連文献を収集し、それを前面に出して説得に努めることが解決の近道ではないか。

以上

（文責：修行 稔）